

(概要版)

対人関係に困難のある児童生徒への指導・支援の研究

— 自立活動「人間関係の形成」の各項目の具体化を通して —

長期研修員 齋藤 裕章

現 状

学校では・・・

障害の重度・重複、多様化等が進む。

- 特別支援学校には自閉症の児童生徒が35%程度在籍している。
- 特別支援学級や通常学級にも発達障害などにより対人関係に困難を有する児童生徒が在籍している。

国際的には・・・

障害者の自立と社会参加が推進される。

- 2001年、ICF（国際生活機能分類）がWHOで採択され、障害者の自立と社会参加への基礎づくりが重要となる。

新学習指導要領、自立活動の内容区分に「人間関係の形成」が新設される。

（新学習指導要領より抜粋）

- 1 健康の保持
- 2 心理的な安定
- 3 人間関係の形成**
- 4 環境の把握
- 5 身体の動き
- 6 コミュニケーション

児童生徒の実態

働きかけに対する適切な行動が難しい

集団活動に参加することが難しい

気持ちが乱れて教師や友人をたたいてしまう

対人関係の問題等で就労が定着しない

教師たちは、対人関係に困難のある児童生徒に適切な指導・支援をして、困難を改善したいと願っているのだけど・・・

研究のねらい

対人関係に困難のある児童生徒に適切な指導・支援を行えるよう、自立活動の内容区分「人間関係の形成」の各項目の内容を分析した一覧表を作成し、授業実践を通して一覧表の活用による指導・支援の有効性を明らかにする。

「人間関係形成指導一覧」の作成と活用

○「人間関係の形成」の4項目

(新学習指導要領より抜粋)

- (1) 他者とのかかわりの基礎に関すること。
- (2) 他者の意図や感情の理解に関すること。
- (3) 自己の理解と行動の調整に関すること。
- (4) 集団への参加の基礎に関すること。

この4項目の指導・支援を実践できるように、各項目を具体化していきました。



○「人間関係形成指導一覧」の作成

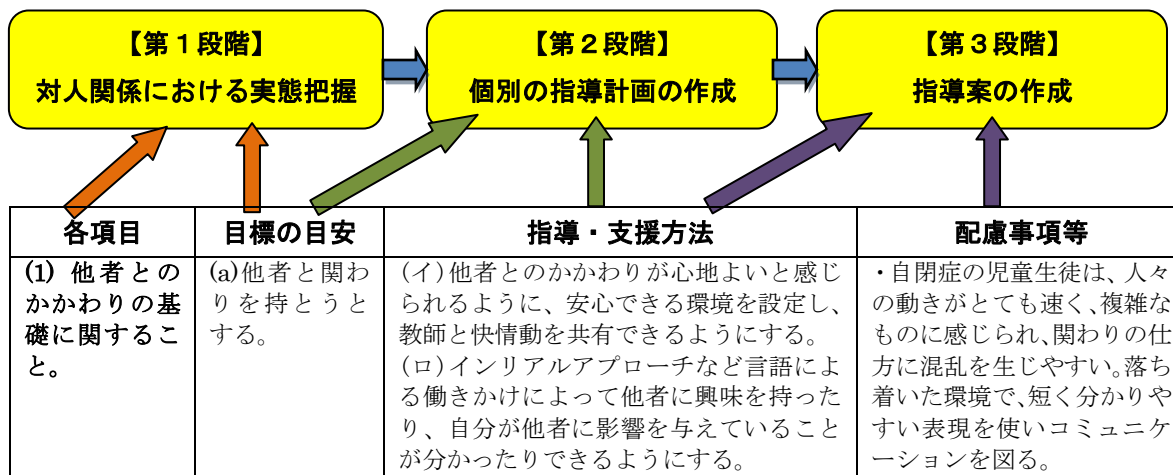
各項目を発達検査、ICF、障害の特性や各種心理学からの知見などによって分析し、それぞれの欄に整理していきました。



目標の目安	指導・支援方法	配慮事項等
4つの各項目について5つずつ「目標の目安」を設定した。「目標の目安」は、生徒の自立活動「人間関係の形成」における実態把握で参照したり、個別の指導計画の作成などにおける目標の設定において参考にできたりするようにした。	各「目標の目安」にそれぞれ2つずつ指導・支援方法を記述した。教師と児童生徒との一対一の活動だけではなく、児童生徒同士の協同活動についても採り入れるようにし、機能向上を目指すボトムアップアプローチと環境の設定などに配慮するトップダウンアプローチの両方についても考慮した。	「指導・支援方法」と併せて参照することにより幅を広げ柔軟に指導案を考えられるようにした。ここには障害の特性についても記述した。

○「人間関係形成指導一覧」の活用

それぞれの欄を必要に応じて参照することができます。



(人間関係形成指導一覧の一部)

実践の概要

○対象生徒 A の概要

- ・知的特別支援学校 高等部 自閉症
- ・自閉症であり、他者に注目することは少なく、教師の指示に応じられないことが多い。
- ・日常の簡単な言葉については、理解と表出ができるが、適切なタイミングでの使用は難しい。



【第1段階】 対人関係における実態把握

一覧表の「各項目」と「目標の目安」の欄を参照して、行動観察から実態を把握しました。



「人間関係の形成」に関する実態

各項目	参照した「目標の目安」	行動観察による生徒Aの実態
(1) 他者とのかかわりの基礎に関する事	(a) 他者とかかわりを持つことができる。	・自分からかかわろうとすることは少ないが、1日に数回、教師に給食の献立や帰省する日を確認していた。
	(b) 他者に援助を要求することができる。	・給食の時間、「おかわり」と言って茶碗を差し出すことがあった。 ・着替えでベルトをはずせないときやお茶を飲みたいときに援助を求められずにいた。
	(c) 他者と共通なものに注意を向けることができる。	・各授業で、前で話をする教師や教師が提示する物に注意を向けることは無かった。 ・目の前に差し出した物について、注目して受け取ることは少なかった。

(生徒Aの対人関係にかかわる実態把握の一例)

【第2段階】 個別の指導計画の作成

実態に適合する一覧表の「指導・支援方法」を参照し、その他の自立活動に関する実態と合わせて個別の指導計画を作成しました。



その他の自立活動に関する実態
「コミュニケーション」
「心理的な安定」
など

個別の指導計画の目標と内容

対人関係にかかわる目標	指導・支援内容
・自分から他者に助けを求め、欲しいものなどを伝えられる。 一覧表(1)-(b)を参照	・VOCAや絵カードを使用して援助要求をする。 (1)-(b)-(イ)を参照
・話者に注意を向けたり、他者と共通なものに注意を向けたりすることができる。 一覧表(1)-(c)を参照	・教師や友人との絵カードのやりとりを行う。 (1)-(c)-(ロ)を参照
・教師や友人の働きかけに応じ、行動することができる。 一覧表(1)-(d)を参照	・授業中に言葉や物をやりとりする場面を多く設定する。 (1)-(d)-(ロ)を参照

【第3段階】 指導案の作成



個別の指導計画に基づいて、一覧表の「配慮事項等」を参照しながら指導案の作成を行いました。



指導案の概要

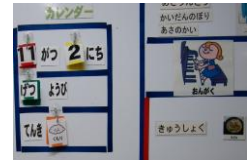
教科・領域等	対人関係に関わる目標	指導・支援方法
自立活動 (個別)	・「お茶をください」など、自分から教師に要求を伝えることができる。	・VOCAや絵カードなどの補助代替コミュニケーションを活用する。 ・言語コミュニケーションを促すため、教師が行動や気持ちを言語化するなどのインリアルアプローチを行う。
自立活動 (集団)	・友人の呼びかけに応じたり、渡されたものを受け取ったりすることができる。	・「朝の会」にソーシャルスキル教育を取り入れる。 ・友人の呼びかけに応じたり、もののやりとりをしたりする場面を多く設定する。

(指導案 指導・支援方法の一部)

実践の結果

○生徒 A の様子

友人とかかわりながら、日付カードを貼るという自分の役割を果たすことができ、充実感を得た表情を見せた。



VOCA のスイッチを押したり、音声を模倣したりすることにより、自分の要求を伝えることができた。



インリアルアプローチで、繰り返し言語使用のモデルを示すことにより、適切に使える言葉が増えた。

○各指導・支援方法の有効性

それぞれの指導・支援方法に効果があり、人と適切にかかわる姿が増えました。



ソーシャルスキル教育を設定した「朝の会」

- ・絵カードのやりとりなど教師と個別学習で習得したことを他の生徒とのかかわりの中で般化することができた。
- ・他の生徒とやりとりする機会を増やし毎日繰り返すことにより、物のやりとりや言葉の受け答えなどのソーシャルスキルが定着していった。
- ・参加した生徒全員が、意欲的に活動し、徐々に教師の援助を減らすことができた。

VOCA の活用

- ・お茶や作業の材料を得るなど、他者に援助を求めることができた。
- ・VOCA の音声を模倣することで、言語を習得できた。

絵カードのやりとり

- ・給食の献立など興味のある絵カードを使用することで、他者と共通なものに注意を向ける頻度が上がった。

インリアルアプローチ

- ・会話のモデルを示したり行動や気持ちを言語化したりすることで、適切な言語使用を促すことができた。

研究のまとめ

○成果

- ・「人間関係形成指導一覧」を参照することで、生徒の実態把握から授業まで、スムーズに進めることができた。
- ・対象生徒に、適切な指導・支援を行うことができ、対人関係の困難改善に効果があった。
- ・「わかった」、「できた」といった自己効力感を得られる工夫の積み重ねが下支えとなった。
- ・授業に参加した他の生徒にも、意欲的に活動するなど指導・支援の効果があつた。

○課題

- ・「人間関係形成指導一覧」を多くの教師に活用して頂き、その評価から改善を続けていく必要がある。
- ・発達段階による分類をして一覧表を並び替え、指導・支援の順序がわかるようにする。
- ・新しい知見を取り入れ、更新していくことで、より適切な指導が行えるようにする。

問い合わせ先 群馬県総合教育センター

担当係：特別支援研究係 0270-26-9218（直通）